

定期健康診断の結果

●内科健康診断:受診勧告 21人

受検者数	計
疾病名	1015
心雑音	8
脊柱側弯症の疑い	6
栄養状態	4
アトピー性皮膚炎	3
湿疹	1

●耳鼻咽喉科健康診断:受診勧告 96人

(2・4・6年生は抽出)

受検者数	計
疾病名	1013
耳垢栓塞	24
難聴の疑い	9
慢性鼻炎	44
扁桃肥大	18
外耳炎	1
咽頭炎	1

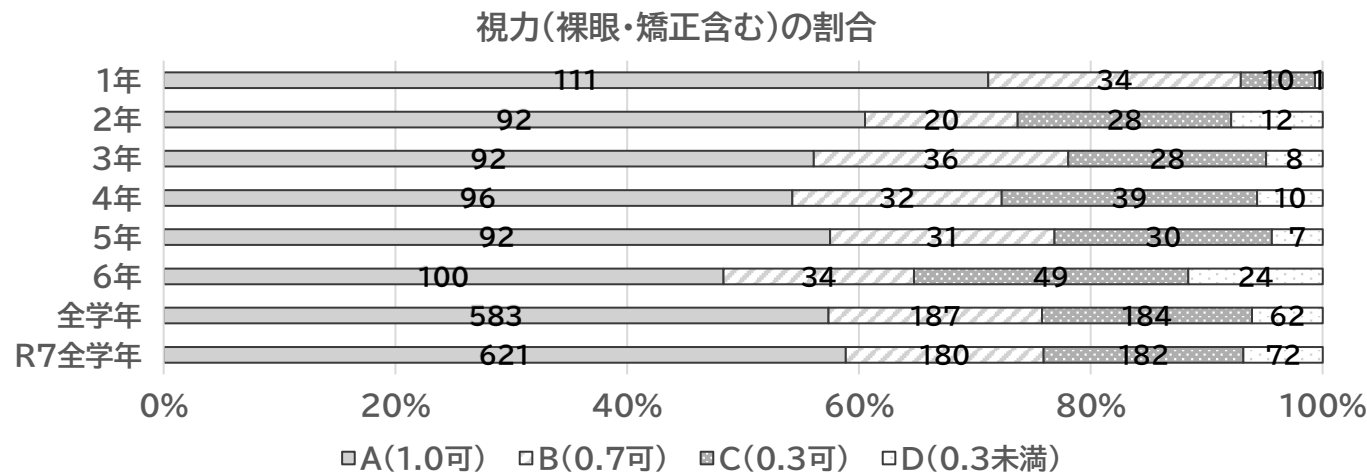
●眼科健康診断:受診勧告 54人

受検者数	計
疾病名	993
アレルギー性結膜炎	31
間歇性外斜視	16
間歇性内斜視	2
眼瞼炎	3
結膜炎	2
睫毛内反症	1

●視力検査:受診勧告 433人

(左右の視力が違う場合は、視力の低い方で集計)

裸眼視力			
1.0可	0.7可	0.3可	0.3未満
543	136	111	44
矯正視力			
1.0可	0.7可	0.3可	0.3未満
40	51	73	18



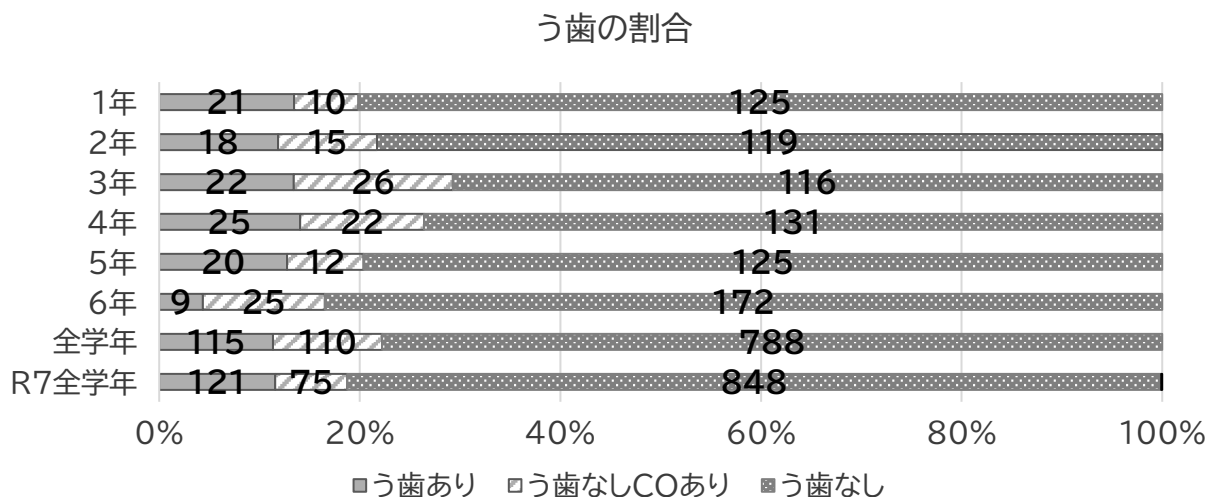
・裸眼視力が1.0可の児童は受検者の約5割であり、受検者の約4割が受診勧告対象である。

・1年生の約7割の児童が1.0可であるが、学年が上がるごとにその割合は低下し、6年生では約4割にまで減少する。3年生以降視力を矯正している児童の中で0.7未満の人数が増加しており、高学年ほど矯正器具を使用していても視力が十分に確保されていない。

<昨年度との比較>

・受診勧告者数に大きな変化はないが、裸眼1.0可児童の減少など緩やかに視力低下が進んでいる。

●歯科健康診断:受診勧告 319人



〈DMF 歯数(う歯経験のある永久歯の1人あたりの平均の数)〉

	検査人数	未処置歯数(D)	喪失歯数(M)	処置歯数(F)	合計	一人当たりの平均 DMF 歯数
5年	156	1	0	17	18	0.115
6年	206	5	0	21	26	0.126

	受検者数	要観察歯	要注意乳歯	顎関節		歯列・咬合		歯垢		歯肉		歯石
				要観察	要医療	要観察	要医療	要観察	要医療	要観察	要医療	要医療
1年	156	23	14	0	0	20	2	24	0	12	2	20
2年	152	26	13	1	0	18	3	18	0	12	2	5
3年	163	41	18	2	0	27	1	23	2	20	3	14
4年	178	31	22	0	0	34	3	48	3	35	4	14
5年	157	20	19	0	0	39	3	30	5	28	0	11
6年	206	29	24	1	0	48	5	48	1	37	5	6
計	1012	170	110	4	0	186	17	191	11	144	16	70

- ・受検者の約3割が受診勧告対象である。
- ・特に歯垢や歯列の課題は全学年を通して約2割の児童に見られる。
- ・永久歯のむし歯数は少ないが、約17%の児童に要観察歯(CO)が認められる。
- ・特に4・6年生において、高学年特有の課題(磨き残しや歯肉の腫れ)が顕著に出ている。

＜昨年度との比較＞

受診勧告対象者の減少や、歯垢・歯肉の状態、歯列・咬合の改善が見られる一方、要観察歯や要注意乳歯の数は増加している。